

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【伊都振興局】重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】  
～新規就農者研修会（かき接ぎ木研修会）を開催～

令和5年3月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-3</b>
1. 4Hクラブ視察研修を実施	
2. 「食の交流会」を開催	
3. 農業経営研修会の開催	
4. 和海地方農業士女性部会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>4-5</b>
1. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
2. わか桃会研修会を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>6-7</b>
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～新規就農者研修会（かき接ぎ木研修会）を開催～	
2. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会研修会（フラワーアレンジメント研修） を開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>8-10</b>
1. 令和4年度有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催	
2. 宮原共選組合でせん定講習会を開催	
3. 第2回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同せん定講習会を開催	
4. 有田市糸我地区「いも茶がゆと餅つきの集い」を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>11-12</b>
1. 第61回全国青年農業者会議 農林水産大臣賞受賞（2年連続）	
2. 令和4年度 由良町農業士会研修会を開催 ～ドローン肥料散布～	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>13-14</b>
1. 分枝系ストックの育苗省力化試験結果	
2. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が県外研修を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>15</b>
1. じゃばら幹腐病対策の効果を確認	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>16</b>
1. 就職ガイダンスを実施！	

# I 海草振興局

## 1. 4Hクラブ視察研修を実施

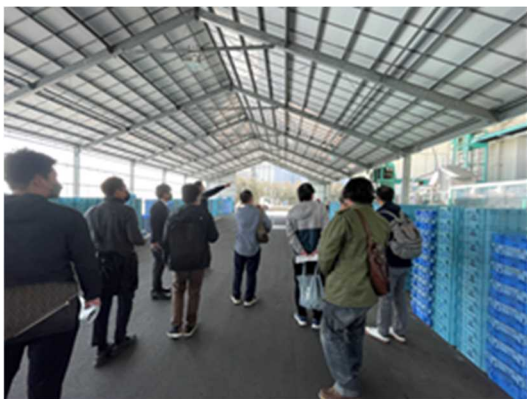
和海地方4Hクラブ連絡協議会（会長：志賀友哉氏）、海南省4Hクラブ連合会（会長：船橋遼司氏）は、県外産地における先進的な取組を学ぶため、3月6日、7日に熊本県玉名市への視察研修を実施した。研修会には、クラブ員8名と農業水産振興課職員1名が参加した。

研修では、JAたまな中央ミニトマト集荷センター及び中央みかん選果場、ミニトマト施設、みかんほ場を視察し、集荷センターや選果場における選果フローや作業性の高いほ場についての説明を受けた。

クラブ員は、JAたまなにおける取組や日々の作業、管理などについて質問し、クラブ員同士で、自身の営農に活かせる事項について議論した。

また、視察での学びを今後活かすとともに、視察に参加できなかったクラブ員に情報を共有するためレポートを作成した。

当課では、今後も研修会の開催などクラブ員の活動をサポートしていく。



集荷センターの視察



みかんほ場での説明

## 2. 「食の交流会」を開催

地域農産物利用促進や農村女性活動の活性化を図ることを目的に、3月9日、海南nobinosにて和海地方生活研究グループ連絡協議会と和歌山県の共催で「食の交流会」を開催し、会員・関係者等38名が参加した。

京都府立大学大学院生命環境科学研究科 農業経営学研究室 中村貴子准教授から「地産地消は環境保全の意識を高めることができるか」と題して講演が行われた。参加者は在来種を大切にしている地域農業と消費者を繋げる仕組みの必要性や食育を続けることの重要性について学んだ。

また、各市町の生研グループから「白菜としょうがの具だくさんスープ」、「中華ちまき」、「マコモとカニカマの中華風サラダ」など地元農産物を使った健康料理レシピの紹介を行った。

参加者からは、「中村先生による滋賀県での魚のゆりかご水田米の取組事例は、わかりやすくとても勉強になった」、「マコモタケの事を知らなかった。9月に直売所に探しに行こうと思う」、「今一度地産地消を生かして毎日の食生活に取り入れ、若い人達にも伝えていきたい」などの意見があった。

当課では今後も生活研究グループ活動支援を行うとともに地産地消の推進に取り組んでいく。



中村先生の講演

### 3. 農業経営研修会の開催

和海地方農業生活団体連絡協議会(和海地方農業士会、和海地方生活研究グループ連絡協議会、和海地方青年農業経営者協議会、和海地方4Hクラブ連絡協議会で構成) (会長松本 弥氏) では3月17日に海南 nobinos で農業経営研修会を開催し、16名の会員が参加した。「インボイス制度について」と題して和歌山税務署の山内教寛氏から、「農業者年金について」と題して和歌山県農業会議の向井元治氏からそれぞれ説明を受けた。

いずれも農業、農業者にとって大切なことであるが、即時に理解するには難しい内容もあり、講師から「疑問に対してはいつでも対応するので遠慮なく問い合わせしてほしい」との申し出があった。農業を取り巻く環境の変化を知ってもらうことを目的とした研修であり、会員が制度対応を考えるきっかけになった。



講師による説明

### 4. 和海地方農業士女性部会を開催

令和5年度の活動計画を検討し会員同士の親睦を図るため、3月20日に海南市農村婦人の家にて開催し、会員5名が参加した。

令和5年度の役員改選と女性部会活動時期と内容の検討を行った。コロナ禍で休止していた活動を再開することとし、種苗会社の見学や先進地視察、農産物の包装の仕方などの研修をし



ジェルキャンドル作り

ていきたいという意見があった。また、女性農業士が少なくなっている現状などについて意見交換を行った。

レクリエーションのジェルキャンドル作りは、サンチルオーガナイゼーションの砂子健太郎氏を講師に招いて行った。会員はガラスにどの砂やガラス細工を入れたらよいか相談したり考えたりして、楽しみながら思い思いの作品を作ることができた。

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

3月9日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は紀の川市立川原小学校に開設している学童農園において、3,4年生16名を対象に食育・交流活動を実施した。

この活動はグループが結成された平成18年以降、会員と学校、地域が一体となって実施している取組である。

体験を始める前に、会員の木村恵宣氏が講師役を務め、「にんじんの種を渡しますが、本来の種はもっと小さく、皆に渡しているのは粘土などで包んで撒きやすくしています」、「マルチに穴をあけているので、種を8粒ずつ入れて優しく土をかけてください」といった種の形状や植え方について説明を行った後、児童たちは分散してにんじんの播種作業に向かった。

参加した児童は、播種作業に一喜一憂し、各マルチ穴に種を丁寧に入れていった。また、「収穫作業が楽しみ」、「ここでできた作物を使った給食を早く食べたい」といった歓声があちこちから上がっていた。

なお、6月頃に収穫作業を行う予定である。

当課では、会員らによるグループの自主的な取組を今後も支援していく。



堆肥施設見学の様子



研修会の様子

### 2. わか桃会研修会を実施

「わか桃会」は、紀の川市桃山町地区の生産者や関係団体を中心とした「あら川の桃振興協議会（会長代理：前阪隆司氏）」の中で令和3年度に結成された若手グループ（45歳未満または就農10年未満の若手農家）であり、月2回程度、研修会や「桃MAPの作成」などの活動を行っている。

3月15日、かき・もも研究所の堀田主任研究員を講師に迎え、「ももの着果管理」について勉強会を開いた。今回の研修会はJAや選果場にチラシを貼り、広く宣伝していたことから、30～70歳代と幅広い年齢層の方が参加した。

研修内容は基本的な着果管理についてであったが、これまで感覚で行っていた作業がデータに裏打ちされていることに改めて気付かされ、ベテランの方も熱心に講義に耳を傾けていた。講義終了後は、『摘蕾・摘果』は老木と若木ではどちらの方を先に行うべきか、「川中島白桃」や「清水白桃」の摘蕾について」など、活発に質問をされていた。

当課では、今後もわか桃会の活動を支援していく。



熱心に聞き入る参加者



### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】～新規就農者研修会（かき接ぎ木研修会）を開催～

3月9日、農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営力向上と相互交流を図るため、かきの接ぎ木についての新規就農者研修会を開催し、6名が受講した。

今回は、管内の柿農家である小松英雄氏を講師に、かきの接ぎ木方法についての講義と現地実習を行った。

最初に受講者一人一人が栽培品目、今後栽培したい品目などについての自己紹介を行い、続いて小松氏から接ぎ木方法の種類やポイントについて説明があった。また、実演を交えながら、接ぎ木ナイフの手入れ方法や穂木のパラフィン処理、接ぎ穂の調整方法について、受講者らも練習を行った。その後、小松氏のかき園地で、接ぎ木の実演を行いながら再度ポイントを説明し、受講者全員で実際に接ぎ木を行った。

受講者からは、「接ぎ木と改植の長・短所」「パラフィンは何処で購入できるのか」など質問があった。

当課では、今後とも新規就農者の技術・経営力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援を行っていく。



接ぎ穂の調整方法の実習



現地ほ場での接ぎ木実演

#### 2. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会研修会（フラワーアレンジメント研修）を開催

3月8日、伊都地方生活研究グループ連絡協議会（会長：小林由美子氏）が地域間での交流を図り、会員の知識向上、人脈形成を進めるため、伊都振興局において研修会を開催し、24名の参加があった。

今回は、講師にフラワーファクトリー ル・レーブ 代表 奥 明子氏と西畑伸子氏を招き、フラワーアレンジメントの研修を行った。

はじめに西畑氏から、使用する花の種類や、花の切り方、オアシスについてなどフラワーアレンジの基本的な知識についての説明があった。その後、大きな花から位置を決めることや高さを揃えないことなど、ポイント解説を受けながら参加者がそれぞれのアレンジに挑戦した。

参加者からは、「花を触ると気持ちが晴れやかになる」、「久々の研修会でみんなと

会えて楽しかった」、「家でもまたフラワーアレンジをしてみたい」といった感想があった。

当課では、今後も研修会等を通じてグループ活動を支援していく。



小林会長挨拶



研修会の様子

## IV 有田振興局

### 1. 令和4年度有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催

3月2日、有田振興局において、有田地方農業士協議会女性部会（部会長：大浦孝子氏）研修会を開催し、8名が出席した。

今回の研修では、アミティ有限会社 取締役専務 尾崎三津代氏を講師に招き、県内食材を使った体験交流メニュー開発研修として、八朔を使用した発酵ドリンクづくりを行った。

有田管内では、温州みかんをはじめとして様々な柑橘類の栽培が行われており、加工品開発の検討をしている農業者も多いことから、講師と参加者の間で活発な情報交換が行われた。



発酵ドリンクづくり

### 2. 宮原共選組合でせん定講習会を開催

当課では、宮原共選組合員の基礎的な技術を学ぶ機会が少なかった兼業農家の女性農業者や定年帰農者を対象として、1年間を通じた研修会を開催している。

3月4日、宮原共選組合の選果場及び組合員ほ場においてせん定講習会を開催し、7名の出席があった。

上野山普及指導員が講師を務め、座学を行った後実際にはほ場でせん定講習会を行った。せん定のポイントとして「管理作業や収穫作業を楽にする」、「毎年、安定した収穫量を得る」、「樹勢を調節し、果実品質のバラツキを少なくする」、「樹内部への採光を多くし、光合成量を増加させる」、「風通しをよくし、病害虫の発生を抑制する」、「せん定量は全体の2割まで」などを説明しながらせん定を行った。



ほ場での実演講習

### 3. 第2回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同せん定講習会を開催

当課では、有田管内の女性農業者及び就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、3月6日に有田中央高校ほ場で開催。講師に、和歌山県「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏を招き、28名が参加した。

はじめに、佐原氏による実演を観てから、それぞれに分かれてせん定を行った。参加者は興味津々で佐原氏のせん定に見入っていた。「まず主枝の先端を決め、亜主枝、側枝を配置し、太陽の光がまんべんなく届くように」と説明があり、講習が進められた。

参加者はなかなか鉢が入らず、農業経験が豊富な佐原氏には参加者から多くの質問が飛び交った。

当課では、今後も有田農業女子プロジェクト・アグリビギナーの研修会及び意見交換会開催を通じ、有田地域の農業者の育成を図っていく。



佐原洋一氏によるせん定講習会

### 4. 有田市糸我地区「いも茶がゆと餅つきの集い」を開催

3月25日、糸我地区青少年育成会（会長：山崎光二氏）主催による「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催された。当会では、毎年、地元の糸我小学校でアイガモ農法による米作りに取り組んでおり、収穫されたお米を使い行われる当イベントは、地区の恒例行事となっている。

当イベントは、山でしばを集め、そのしばを燃料にかまどで茶がゆを炊くという体験は、子どもたちに、食のありがたさだけでなく災害時に活かせる技術を伝えることにつながるために、地区をあげて取り組まれている。振興局では、米づくりから指導しており、今回も、農業水産振興課担当職員が参加した。

3年ぶりの開催となる今回は糸我小学校の児童約50名が参加した。児童のしば集め引率には地区の中・高校生、茶がゆや餅の作り方指導には老人クラブなどがボランティアで参加し、育成会含めて大勢の大人がサポートした。児童たちは、なかなか経験できない貴重な体験に喜んでいった。

当課では、引き続き、当会の食育事業を支援していく。



全員でしば集め



茶がゆづくりの様子

## V 日高振興局

### 1. みなべ梅郷クラブが2年連続農林水産大臣賞を受賞

3月2日、第61回全国青年農業者会議（主催：全国青年農業青年クラブ連絡協議会）が東京都江戸川区総合文化センターにおいて開催され、当地域の農業後継者グループである『みなべ梅郷クラブ』の中井貴章氏がプロジェクト発表を行った。

本会議は「日本農業の担い手として、農業や農村生活環境の改善等を実践している若者たちが、体験した成果をお互いに発表しあい、当面する問題の解決方法や発展方向を見出すとともに、農業を取り巻く諸問題を討議して、新しい農業及び農村の創造に資すること」を目的として開催されている。

中井氏は「ニホンミツバチを守り 梅産業を次世代へ！」という課題名で、歴史あるうめ産地を守るため、地域住民とともにニホンミツバチを保全するプロジェクト（蜜源樹の植栽、巣箱作り等）に取り組んだ内容について発表を行った結果、地域の課題に対し、クラブ員だけでなく、地域や企業の意見を多く取り入れた活動が評価され、地域活動部門で農林水産大臣賞を受賞した。みなべ梅郷クラブとしては、昨年の山本宗一郎氏に続き2年連続の農林水産大臣賞受賞となり、同クラブの取り組みが広く内外に周知されたことから、活動のさらなる活性化につながることを期待される。

また、クラブ員の意識向上につなげるため、4月25日に行われる日高地方4Hクラブ研修会で発表する予定である。

当課としては今後も4Hクラブ員のプロジェクト活動における取り組みを支援していく。



表彰状授与式



賞状を持つ中井氏

### 2. 令和4年度 由良町農業士会研修会を開催

#### ～ドローン肥料散布～

3月22日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）は、農作業の能率向上、省力化技術の普及を目的として、ドローン肥料散布に興味がある農業者を対象に研修会を開催。講師に、ドローンオペレーターの寺田諭立馨氏を迎えて、由良町農業士会副会長数見隆一郎氏の温州みかんほ場で散布実演を行い、農業者計23名が参加した。

ドローンには、一般的に使用されているみかんの粒状肥料を 14 kg 搭載し、散布を行った。ほ場の形状と面積、樹の本数と植栽間隔の計測については事前に行っており、効率的に散布を行うことができた。

散布できる肥料の種類やドローンへの肥料積載方法など、参加者からは多くの質問が寄せられ、「労力負担軽減に傾斜地では、今後普及する可能性があるのではないか」、「ドローン本体の金額や整備面を考えると、もう少し改良されてから導入を検討したい」などの声が聞かれ、スマート農業や労力負荷軽減を考える良い機会となった。

今後も当課では、由良町農業の発展活性化のために同会の活動支援を積極的に行っていく。



ドローンによる肥料散布の説明



ドローンによる肥料散布

## VI 西牟婁振興局

### 1. 分枝系ストックの育苗省力化試験結果

分枝系ストック栽培は、育苗床に播種後、20日苗(本葉2~4枚)を仮植し、さらに約20日後本ぼに定植する。仮植時に根を切ることで細根量を増やし、生育を良くする技術であるが、作業に多大な労力がかかることから、セルトレイ(200穴)に播種し、仮植せずに定植する実証ほを2か所(すさみ町、白浜町)設置し、生育や切り花品質を調査した。

3月9、10日に農業試験場の松本主査研究員、井溪研究員及び村畑普及指導員で調査したところ、切り花長はセルトレイ区・仮植苗区ともに60cm前後で、L級(50cm~60cm)が中心であった。一方セルトレイ区では下位部の側枝が強くなる株が多かったため、茎径および切り花重のばらつきが大きかった。原因は今のところ不明であるものの、そのような株は、摘心時に下位部の側枝が3~5cm程度に成長しているため、摘み取ればよいと考えられた。

セルトレイの使用により、播種床、仮植床の準備や仮植が不要となるため、育苗作業時間が約2分の1程度になると見込まれている。

側枝の処理等の管理方法の改善により、従来の育苗方法とほぼ遜色のない切り花品質が確保できると思われるため、省力効果に関する検討を継続し、導入を推進する。



切り花品質調査



切り花品質外観

(左：セル育苗、右：仮植育苗)

### 2. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が県外研修を実施

3月8、9日に、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会(会長：北川翔大氏)が、県外研修を実施し、クラブ員6名が京都府内の農園や直売所、梅林などを訪問した。

1日目は、城陽市の株式会社森島平兵衛農園で、カラー(サトイモ科の切り花)や、白いちじくのほ場を見学した。森島氏のカラーは湿地性の系統で、れんこんのように栽培しており、豊富な地下水をかけ流している様子を見たクラブ員から質問が相次いだ。また、いちじくは生産だけでなく、直売所を設置して完熟果やスムージー等の加工品を販売する6次産業化に取り組んでおり、創意工夫しながら現在に至った話が大変参考になった。



2日目は、株式会社雪印メグミルクの京都工場で、製造工程や衛生管理について学んだ後、梅の消費拡大を目的に、梅シロップを牛乳で割る飲み方（うめラッシー）の普及活動に取り組んでいることを紹介した。工場長を含む関係者に、持参した梅シロップでの試飲をお願いしたところ、好評であった。

県外研修は4年ぶりで、他産地の品目や栽培状況を知ることで視野が広がり、クラブ員間の交流を深める機会となったことから、農業水産振興課では、今後もこのような活動を支援していく。



カラー栽培施設の見学



「うめラッシー」の紹介

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. じゃばら幹腐病対策の効果を確認

カンキツ幹腐病は、枝幹部に局部的に発生し、樹皮や木質部まで腐り、すり鉢状または溝状にくぼむ病気で、東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすい。重症の場合は、樹勢低下や枝折れが発生し減収するため、じゃばら栽培の大きな問題になっている。

このため、農業水産振興課では令和2年度から、従来の防除に加え、ワイヤーブラシによる病患部の削り取りと、IC ボルドー66Dの2倍液の局所散布、及び同剤の50倍液散布を行う実証ほを設置し、調査を行ってきた。

3月14日、北山村大沼の実証ほにおいて、幹腐病発生状況や局所散布による付着状況等を生産者とともに調査し、発生の減少を確認した。

調査を行った生産者からは「幹腐病の発生を抑えることで樹容積が拡大すれば、収量の増加にもつながるのでは」と、今後を期待する声もあった。

当課では、今後とも、関係機関と連携を密にし、幹腐病防除や高齢者が管理しやすい低樹高化に取り組み、果実の安定生産につなげていく。



幹腐病発生状況の確認



IC ボルドー2倍液の局所散布状況

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 就職ガイダンスを実施！

3月6日、紀北農芸高等学校の体育館において、同高校と合同で令和5年度卒業予定者の就職ガイダンスを実施し、学生・生徒64名が参加した。

本ガイダンスは、学生・生徒の就職活動を支援し、進路決定の一助とすることを目的に、平成30年度から実施している（紀北農芸高校との合同開催は令和元年度から）。

昨年度は、新型コロナの影響で中止としたが、本年度は、採用を予定している県内外の農業関連企業や農業法人など15社の協力を得て実施することができ、企業毎に設置したブースで、学生は興味のある企業等の人事担当者から仕事内容や待遇などについて説明を受けた。

学生にとっては就職活動の第一歩であり、熱心に話を聞き、内容をメモし、質問する積極的な姿勢が見られた。卒業後の社会人としての活躍を願うとともに、前途ある未来に大いに期待したい。

本校では、今後も、学生それぞれの希望に応じた支援を継続して行う。



説明ブース



担当者に質問をする学生

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489